

8 練企財第 158 号
令和 8 年 8 月 5 日

教 育 長 様
各部（室、局）長 様

副 区 長
大 木 裕 子
宮 下 泰 昌

令和 9 年度予算編成に関する基本方針（依命通達）

我が国の経済は、企業所得が堅調に推移し、雇用者所得も名目・実質共に増加するなど、緩やかな回復が続くことが期待される。一方で、中東情勢を始めとして、経済の先行きに大きな影響をもたらし得る海外のリスク要因は引き続き存在するほか、少子化と人口減少といった国内の構造的課題への対応も求められている。

区財政も楽観できる状況にはない。現時点では歳入一般財源は増加傾向にあるものの、ふるさと納税による特別区民税の減収は年々拡大し、来年度は 69 億円となる見込みである。加えて、税源偏在是正の名のもとに、国が東京の財源を更に収奪する動きが見受けられる。歳出面では、扶助費をはじめとする義務的経費が予算の 5 割を占め、硬直化が進むなかにあって、老朽化した区立施設の更新や災害対策、遅れている都市インフラの整備など、課題が山積している。物価や賃金の上昇に伴う財政負担も一層増大している。

令和 9 年度当初予算では、歳入増を上回る歳出拡大により、約 385 億円の歳入一般財源が不足する見込みである。不足を補うために基金や起債の活用を続ければ、基金は数年で底をつき、起債残高が大幅に増加する可能性がある。

区では現在、区長の公約を可能な限り反映させた「（仮称）当面の事業計画」の策定に向けて、全庁をあげて取り組んでいる。厳しい財政状況が続くことが見込まれるが、「区民とともに創り上げる新しい区政 新時代練馬」の具現化に向けて、区民から寄せられる様々な声に幅広く耳を傾け、各施策への的確な反映に努めていかなければならない。そのためには、全ての施策について効果や必要性を検証し、不断の見直しを行うとともに、自主財源の拡充、特定財源の確保に取り組み、将来に渡って持続可能な財政運営を堅持していくことが重要である。

そこで、令和9年度予算編成に当たっては、

- (1) 本年度策定・改定予定の「(仮称) 当面の事業計画」および「公共施設等総合管理計画〔実施計画〕」に掲げる事業の推進を最優先とし、実施に向けた最適な手法を検討・精査した上で、必要な予算を計上すること。
- (2) 国や都の施策を注視し、特に新たな事業が開始される場合には、区としての対応策を検討・精査した上で、必要な予算を計上すること。
- (3) 既存事業の効果・必要性の検証と見直しを徹底し歳出削減に取り組むとともに、新たな歳入確保に努めること。

とする。については、下記事項に留意し、編成に取り組まれない。

この旨、命により通達する。

記

- 1 歳出については、以下により適切に見積もること。
 - (1) 所要額・財源・費用対効果を十分に精査し、真に必要な経費のみ計上すること。なお、物価上昇および賃金上昇の影響等については、適切に反映すること。
 - (2) 新規事業および事業のレベルアップについては、その必要性や将来展望、課題を明らかにした上で経費を計上すること。限られた財源・人的資源を有効に活用する観点から、スクラップアンドビルドを徹底すること。
 - (3) 令和7年度決算において多額の不用額が生じた事業や減額補正を行った事業については、予算積算方法や執行方法を必ず見直すこと。また、成果を客観的に把握できない事業や必要性が低下した事業の縮小・廃止に不断に取り組むこと。
- 2 歳入については、以下により確保に努めること。
 - (1) 税および保険料等は、引き続き収納率の向上と滞納額の縮減を図ること。
 - (2) 負担の公平性の観点から、受益者負担の適正化を図ること。
 - (3) 国や都の補助金等は遺漏なく確保するとともに、補助金等が削減・廃止される場合は、あわせて事業の縮小・廃止を検討すること。
 - (4) 各部等の創意工夫により寄付制度の活用や区有財産の更なる有効活用等、自主財源の一層の確保に取り組むこと。特にクラウドファンディングを活用して実施する事業については、魅力ある事業内容を十分に検討し、寄付目標額を達成できるよう努めること。